

学生カルテ・ポートフォリオを効果的に導入するための方策



第4班

- ・神戸学院大学 本多美穂(学生支援グループ)
- ・北星学園大学 田守智恵子(学生支援課)
- ・龍谷大学 高田文彦(情報メディアセンター事務部)
- ・立正大学 塩山貴弘(大崎学事課)
- ・立教大学 饒村良司(メディアセンター)
- ・日本福祉大学 赤松伸一(学事課)
- ・日本事務機器 高橋修(事業推進本部)

学生カルテ・学生ポートフォリオとは？

※昨年度第1分科会 第5グループ報告より抜粋

◆学生カルテ

- ・学生生活で問題のある学生の早期発見・サポートをすることで重症化を防ぐこと目的とし、学生の基本データやカウンセリング内容を記録し、共有するためのシステム
- ・教職員が主体的に情報入力し、中心的に利用するシステム
- ・何らかの問題や課題を抱えた学生への対応を前提とし、自立に向かわせる支援となるシステム

◆学生ポートフォリオ

- ・学生が自分自身の情報(実習記録、論文、ボランティア活動記録、学習記録など)を蓄積し、第3者に公開することでアドバイスを求めたり、自分の学修課程の振り返り材料とできるシステム。
- ・学生が中心的に利用し、多少の自由度があるシステム(ブログ形式)
- ・学生が自立し、社会に自分をアピールすることをサポートするシステム

導入の目的



第4グループは、未導入大学(4大学)
導入したものの…という大学(2大学)

そもそも何故導入をしなければならないのかが
「曖昧」になっている

・導入して何をやるかの前に、なぜ導入するのか

⇒大学によって、大前提となる目的は違うのではなか？

⇒目的に合わせたしくみになっているのか？

各大学が導入する場合の目的例①



●A大学 福祉人材の育成

- ・学生カルテ：福祉特有の心理面の弱い学生が多く、早期ケア＋継続的なケアが重要になっている。
- ・ポートフォリオ：日本の福祉を引っ張っていく人材を生み出していく

●B大学 学生の多様化に伴う学生の変化への対応

- ・学生カルテ：昔はなまけ学生へのケアが中心だったのが、友達がいらないなど交友関係に希薄化により鬱になる学生も出てきた。こういう学生に対して一人ひとりのケアをしていくために学生カルテを使いたい
＋こういうケアをしていく上で増えていく事務作業の効率化

●C大学 学生サービスの向上への対応

- ・学生カルテ：建物(部局)が分かれており、学生が移動しないと全体としての対応ができない。窓口情報のワンストップ化を図りたい

各大学が導入する場合の目的例②



●D大学 規模拡大への対応、先端大学としての使命

・学生カルテ

:大学の規模が拡大、学生数の増加により、今までできていなかったことができなくなってしまった。学生に関わる情報を一元化することで対応できるようにするとともに、規模拡大で増加した業務の効率化も図りたい。

・ポートフォリオ

:有力大学として、他大学に先んじて事例をつくるべき社会的要請。また、電子機器になれた学生に時代のニーズに合わせるとともに、社会に出る前に多様なツールを使える技量を身につけた学生がほしい社会の要請に対応できる学生を送りだしたい。

このように導入に至る考え方は多様。
道具ありきではなく、
目的を達成するためにどのような仕組みにするか？

どのように導入していくのか(仕組みの整理)



①目的の明確化

●A大学 :学生カルテにより福祉特有の心理面の弱い学生が多く、**早期ケア**+継続的なケアがしたい

②目的実現に必要な仕組みを整理していく

■早期ケアに必要な仕組み

- ✓ 成績&履修状況データ
(履修登録内容に問題がないか、経年成績に特徴的はマイナス変化がないか)
- ✓ 出欠管理データ
- ✓ 電子掲示板開封履歴
- ✓ ゼミ担当教員からの問題学生情報
- ✓ 実習指導情報
- ✓ 学生からの発信情報
(特定の授業後に授業の感想記入を義務付ける)
- ✓ 学生メンター制の導入
- ✓ 上記の情報を一人ではなく、複数人一覧で見ることができる仕組み
(複数の学生データを俯瞰することで、問題学生を見つけ出しやすくする)

どのように導入していくのか(仕組みの整理)



①目的の明確化

- A大学 : 学生カルテにより福祉特有の心理面の弱い学生が多く、早期ケア+**継続的なケア**がしたい

②目的実現に必要な仕組みを整理していく

■継続ケアに必要な情報

- ✓ 各部局の学生相談情報相談情報記録の共有システム
- ✓ 記入内容のガイドライン
(どのような内容を、どのような書き方で記入すればいいのか)
- ✓ 閲覧・書込権限の設定とガイドライン

どのように導入していくのか(仕組みの整理)



③やりたいことができるのか、整理検証

■早期ケアに必要な仕組み

- ✓ 成績&履修状況データ ⇒ ○
(履修登録内容に問題がないか、経年成績に特徴的はマイナス変化がないか)
- ✓ 出欠管理データ ⇒ △出欠システム導入 or 出欠情報を入力する必要
- ✓ 電子掲示板開封履歴 ⇒ ○
- ✓ ゼミ担当教員からの問題学生情報 ⇒ △教員に学生情報入力義務化する必要
- ✓ 実習指導情報 ⇒ △別システムとの連携により可能
- ✓ 学生からの発信情報 ⇒ ×
(特定の授業後に授業の感想記入を義務付ける)
 - 授業評価アンケートのようになり、教員の協力をえることが難しい
 - 授業で取り組まないと、問題がある学生は特に発信はしてくれない
- ✓ 学生メンター制の導入 ⇒ ×人件費の上積みが必要になる
- ✓ 上記の情報を一人ではなく、複数人一覧で見ることができる仕組み⇒ ○
(複数の学生データを俯瞰することで、問題学生を見つけ出しやすくする)

どのように導入していくのか(仕組みの整理)



③やりたいことができるのか、整理検証

- A大学 : 学生カルテにより福祉特有の心理面の弱い学生が多く、
早期ケア+**継続的なケア**がしたい

■継続ケアに必要な情報

- ✓ 各部局の学生相談情報相談情報記録の共有システム ⇒○
- ✓ 記入内容のガイドライン ⇒△
(どのような内容を、どのような書き方で記入すればいいのか)
- ✓ 閲覧・書込権限の設定とガイドライン

⇒○今回の目的に対応して使用すべき部局は絞られており、その中でのルール設定でよい

どのように導入していくのか(運用課題の想定)



④細かい問題点を洗い出し、運用方法を定める

- ・データ閲覧可能範囲 ⇒ ③で定めた部局以外が使いたい場合のルール設定
 - ・セキュリティ対策 ⇒ 情報部局をいれた検討が必要
 - ・データをどのように入力するか
⇒ すぐに入力できる仕組みが必要か(パソコンがある部屋面談させる?)
 - ・パソコンに不慣れなものに対してどうする
⇒ 使いやすいインターフェース、一人一回は研修をうける
 - ・問題学生を密得るには、問題学生の指標が必要ではないか
 - ・同じ学生が相手でも、担当者によって見方が違う
⇒ 情報を見る側の研修が必要?
 - ・この組で業務が簡素化できるようになるのか
 - ・コストパフォーマンス面でどうなのか
- ……などなど

後から考えるのでは遅い！ 最初に決める！！

どのように導入していくのか(推進体制)



⑤ ①～④までを進めていく体制を固める

1、目的を明確に打ち出す

⇒ **経営陣（錦の御旗）**

2、どういうカルテにしたいか

⇒ **設置WG（教務・学生・情報・セキュリティ部局）**

※仕様が固まり次第、システムベンダーを加える

3、継続する

⇒ **運営委員会（設置ワーキンググループ）**

最後に



教職員が、共通した認識で導入し、
ともに使っていかなければならない！！



**宝の持ち腐れにならない、
学生という宝を守る仕組みにしよう！！**